

## 畿央大学研究データ管理・公開ポリシー

### (目的)

畿央大学（以下「本学」という。）は、建学の精神に基づき研究活動によって生み出された研究データを適切に管理及び公開することにより、学術研究のさらなる発展に寄与すること、また社会・地域への還元を促進し、研究データの価値を高めることを目指す。本ポリシーは、この理念のもと、本学における研究データの管理および公開の原則を定める。

### (定義)

本ポリシーが対象とする研究データとは、本学における研究活動の過程で研究者によって収集または生成されたデータのことをいい、デジタル・非デジタルを問わない。

### (研究データの管理)

原則として、研究データを収集または生成した研究者が、その研究データの管理を行う権利と責務を有する。研究者は、研究データの価値を守るため、研究分野の特性等を踏まえ、法令および倫理的要件に基づき適切に管理する。

### (研究データの公開)

研究者は、研究データの価値を向上させるため、可能な限り研究データを社会に公開し、その利活用に供する。

### (大学の役割)

本学は、研究データの管理および公開を支援する環境の整備を行う。

### (その他)

本ポリシーは、社会や学術状況の変化に応じて、適宜見直しを行う。

## 畿央大学研究データ管理・公開ポリシー解説

### (目的)

畿央大学（以下「本学」という。）は、建学の精神に基づき研究活動によって生み出された研究データを適切に管理及び公開することにより、学術研究のさらなる発展に寄与すること、また社会・地域への還元を促進し、研究データの価値を高めることを目指す。本ポリシーは、この理念のもと、本学における研究データの管理および公開の原則を定める。

### <説明>

本ポリシーは、建学の精神に基づき策定するものであることを示した。

### (定義)

本ポリシーが対象とする研究データとは、本学における研究活動の過程で研究者によって収集または生成されたデータのことをいい、デジタル・非デジタルを問わない。

### <説明>

本ポリシーにおける「研究データ」には、以下のものが含まれる。なお、研究データの記録媒体（デジタル・非デジタル）は問わない。

- ① 研究素材として収集又は生成された一次データ（測定データ、画像情報等）
- ② 一次データ等を分析、処理して生成された情報（加工データや解析データ等）
- ③ 上記データの収集や生成の段階で作成された記録（実験ノート、質問票等）に記載された情報
- ④ 上記のデータを用いて作成された研究成果（論文や講演資料等）に記載された情報
- ⑤ 研究に用いられた 有体物等（試料、標本等）に蓄積されている情報
- ⑥ その他研究活動に用いることが予定されている情報及び研究活動に用いられた情報

### 本学における研究活動

「本学における研究活動」とは、本学の資源（施設・設備等）を用いて実施される研究活動をいう。他大学、民間企業、その他の機関に所属する者が、本学の資源を使用して行う研究活動については、その研究活動において収集・生成される研究データの管理等に関し、契約等に別段の定めがある場合には、その定めに従う。

### 「研究者」

「研究者」とは本学に所属する全ての役員・教職員、研究員、ならびに博士課程・修士課程・学士課程に在学する学生、研究生、専攻生等本学で修学し、本学で研究活動を行うものをいう。

(研究データの管理)

原則として、研究データを収集または生成した研究者が、その研究データの管理を行う権利と責務を有する。研究者は、研究データの価値を守るため、研究分野の特性等を踏まえ、法令および倫理的要件に基づき適切に管理する。

<説明>

研究データを収集または生成した研究者は、その管理について責務を負うものとする。研究データの管理については、法令および本学の規程の範囲内で、それらを収集または生成した研究者自らが判断、決定し適切に管理するものとする。ただし、当該データについて第三者が権利や法的利益を持つ場合(例えば、データが第三者の著作物や個人情報を含んでいる場合)には、それらを害してはならない。

(研究データの公開)

研究者は、研究データの価値を向上させるため、可能な限り研究データを社会に公開し、その利活用に供する

<説明>

研究者は、学術的意義のある研究データを社会に公開し、その利活用を推進する。ただし、法令等の規定を遵守し、「オープン・アンド・クローズ戦略」(データの特性に応じて公開すべきもの(オープン)と保護すべきもの(クローズ)を区別する戦略)に反しない範囲で、公開の可否、条件、方法を決定するものとする。

(大学の役割)

本学は、研究データの管理および公開を支援する環境の整備を行う。

<説明>

本学が研究者に提供する環境として以下を想定している。

- ① 研究データの管理に係る情報の収集及びその提供
- ② 研究データ管理の仕組みの検討と構築、運用
- ③ 研究データを公開するためのリポジトリの提供
- ④ 研究データ利活用のための大学内外への周知と利用促進

(その他)

本ポリシーは、社会や学術状況の変化に応じて、適宜見直しを行う。

<説明>

研究データの管理・公開・利活用のあり方は、社会・経済システムや学術状況の変化により大きな影響を受ける。また、関係法令の改正等も頻繁に行われていることから、本ポリシーについては、適時に見直しを図ることが必要であることを示している。